

370兆円の投資を「真の成長」につなげるために：成長戦略における知的財産戦略の「構造的不在」とその対策

過去の失敗：
シリコン太陽電池の教訓

2000年頃
世界シェア50%

直近
1%未満
急落

知財・標準化戦略の不備により、「技術で勝って
事業で負ける」歴史を繰り返すリスク。

2040年度まで累計370兆円超の官民投資
(17の戦略分野, 62項目)

知的財産戦略の
「構造的不在」(空白)

分野横断的課題における「知的財産」の不在
- スタートアップや金融など8つの重要課題が掲げられているが、
知財は独立した項目として一切立てられていない。

提言：知財を「成長のエンジン」に変える3ステップ

第3段階：クラスター・
知財金融の実務支援
共有特許の実務ルール明文化や、
企業価値担保措置（知財を含む事
業困債）を地域金融に浸透させる
ための実務基盤を構築。

軸1：特許・標準 (SEP) ・
オープン&クローズ戦略

【勝ち筋】オール光ネットワーク
(特許世界2位) は明示的。
【懸念】量子コンピューティン
グやペロブスカイト太陽電池は
戦略の記述が薄い。

APN
低
Perovskite

軸2：産業クラスターに
おける知財帰属

産学官の連携強化の一方、共
有特許の取り扱いやライセン
スルール設計が欠落。死蔵特
許や交渉力劣後の懸念。

軸3：国費投入成果（日本
版バイ・ドール）の権利化

巨額の固費投入も、受託者へ
の知財帰属や政府介入権、
スタートアップ承継スキーム
への言及がない。

軸4：AI・コンテンツ産業
の著作権論点

コンテンツ海外売上20兆円目
標も、海賊版対策は事後処理中
心。AI学習データの権利処理
スキームも不足。

第3段階：クラスター
明文化や、企業価値担保措
(知財を含む事業困債) を地
域金融に浸透させるための実務基盤を
構築。

分野ごとの知財戦略の現状とリスク

戦略分野	知財の現状・優み	戦略上のリスク・課題
オール光ネットワーク	特許数世界2位。オープン&クローズ戦略を明記。	グローバルエコシステム構築の主導権維持。
ペロブスカイト太陽電池	主原料ヨウ素のシェア3割。	累積特許数で中国に逆転、タンデム型が弱点。
量子センシング	特許数世界2位（材料・基盤技術）。	記述は強いが、コンピューティング側の戦略が薄い。
量子コンピューティング	ユースケース実証に重点。	統合ミドルウェアの国際標準化・SEP戦略が乏しい。
コンテンツ	海外売上20兆円目標（2033年）。	海賊版被害が最大10兆円規模。学習データの権利処理。

第2段階：知財・標準を
「第9の横断課題」へ
全分野のロードマップに「知財・標準
パッケージ」欄を追加し、SEP取保方針や
データ保護、海賊版対策を組み込む。

第1段階：
IPランドスケープによる現状把握
62項目を「戦略明示型」「資源蓄存型」「記述空白型」に分類
し、ホワイトスペース分析を即時実施。